

第2回ラージボール選手権大会

7月5~7日 富山県総合体育センター

第2回を迎えた全日本ラージボール選手権は、31年前に初めてラージボールの全国大会が行われた富山県で開催され、年代別に男女シングルスが各4日、混合ダブルスが8日間の計25試合が3日間にわたって行われた。富山県で初代チャンピオンが富山に輝くなど、富山も喜ぶことながら、試合数は減ったにもかかわらず、ラージボール特有の雰囲気も持ち合わせた大会となった。

高田麗江子 (Heartful/富山) **Women's Singles** **40**
女子シングルス



前年ベストホウの健闘は、地元で思いづく大勝を決めてくれて初優勝を決めた



エスの少ない安定したラリー力を見出し、高力者の穴戸、小野を抜けて初優勝

小野千代 (アサヒ/東京)

藤田真久 (鶴の木会/徳島) **Men's Singles** **75**
男子シングルス



前年ベストホウの健闘は、地元で思いづく大勝を決めてくれて初優勝を決めた



大野宗作 (たけのこクラブ/富山)

山田昭仁 (伊上水球/徳島) **Men's Singles** **50**
男子シングルス



健闘立フットワークで連続攻撃で得点を重ねた。決勝では松々木との打ち合いを制してV2



佐々木伸人 (ママー/豊前)

池田直樹 (ニッパクサン/熊本) **Men's Singles** **1**
男子シングルス



攻守のバランスに長け、押入れの駆け引きで粘り強さを見せ、並々の23歳層を破る。「準決勝では途中から追い上げられ、決勝ではこの3年間で初めて1ゲームを取られたので、悔しかったです。来年も活躍を期待します」



成田隆 (フォーキョウ/豊前)

瀧敏 (シヤウ/岐阜) **Women's Singles** **50**
女子シングルス



コンパクトなフォームで強さを発揮。23歳層、全国ラージから集まるとは思ってもなかった



ダブルスパートナーの寺島と

高橋富貴子 (セフィウス大川風/富山)

池内耕治 (SIZANクラブ/徳島) **Men's Singles** **85**
男子シングルス



今年から55歳の部デビューの爽やかな内は、粘り強いラリーで上位層の自派を築いた



古畑富士夫 (SIZANクラブ/徳島)

井上啓 (伊上水球/徳島) **Men's Singles** **65**
男子シングルス



65歳の部には若輩と見られたが、冷静な試合運びで全試合ストレートの初優勝



横田真樹 (スリースター/山口)

藤本武司 (ニッパクサン/熊本) **Men's Singles** **40**
男子シングルス



低いコース取りやワンクションなど多彩な技術で相手を驚かせ、全試合1ゲームも落とさずとなく決勝、右にダブルスと合わせて2冠を達成



中泉仁 (鶴の木会/富山)

青木麗美 (TEAMZERO/東京) **Women's Singles** **1**
女子シングルス



リーグを抜いたプレーで粘り強く進め、若い何ハンド攻撃もあり、ダブルスと合わせて2冠



永安住乃 (スマイル/東京)

大森健良 (ジョイフル/豊前) **Men's Singles** **70**
男子シングルス



カットと攻撃を繰り返してオールラウンダーをスライルで徹底攻撃に成功も決って2冠を達成



倉田健 (新栄如水会/新潟)